

伊勢神宮崇敬会だより

みもすそ

特集
天皇御即位と神宮

お伊勢さんの歳時記

- 4月3日 神武天皇祭遙拝
- 4月4日 神田下種祭
- 4月13日 植樹祭
- 4月15日 大麻用材伐始祭
- 4月28～30日 春の神楽祭
- 4月30日 大祓
- 5月1日 神御衣奉織始祭
- 5月13日 神御衣奉織鎮謝祭
- 5月14日 風日祈祭
- 神御衣祭
- 5月31日 大祓
- 6月1日 御酒殿祭
- 6月15～25日 月次祭
- 6月30日 大祓

内宮を流れる五十鈴川は、倭姫命が御裳を濯がれたことから「御裳濯川」(みもすそがわ)とも雅称されます。題字は本会会長の松下正幸による浄書。表紙は、儀装馬車で内宮での御親閲に参進される天皇陛下。

第94号
令和2年 春



天皇陛下が親ら御即位を内外へ広く宣明する「即位礼正殿の儀」(10月22日)。写真提供/宮内庁



内宮での御親謁に臨まれるため儀装馬車で参進される天皇陛下。

特集 天皇御即位と神宮

御即位の礼を終えられ

国内外へ御即位を宣明された天皇陛下。
御即位後に初めて行われた御一代に一度の大嘗祭と
それに伴う神宮の臨時祭や
両陛下揃っての伊勢行幸啓を振り返ります。



宇治山田駅から内宮へ向かわれる両陛下。

令和元年五月一日、天皇陛下は踐祚され、天皇の位を受け継がれました。

踐祚とは位を踏むという意味で、八咫鏡・天叢雲剣・八咫瓊勾玉の三種の神器を継承され皇位につかれたことを表します。皇位継承に伴うさまざまな儀式や行事は「御大礼」と総称され、御一代に一度の特別な祭儀です。

皇室の御祖神・天照大御神をおまつりする神宮へも、御大礼に際して陛下より節目ごとに勅使をご差遣になり幣帛が奉られ、大御饌を奉って祈りが捧げられてきました。

御大礼のクライマックスといえる大嘗祭では、皇居東御苑に建てられた大嘗宮の悠紀殿・主基殿に、天照大御神をはじめ天神地祇をお招きし、天皇陛下親ら神饌を奉る大祭が執り行われました。

十一月には、大嘗祭を終えられた天皇

皇后両陛下が皇祖神をおまつりする伊勢の大宮地へ御親謁あそばされました。

今号では、御大礼に伴う神宮での臨時祭や、市民の奉祝歓迎の様子を、貴重な写真とともにご紹介します。

即位礼及び大嘗祭期日奉告祭

五月一日、皇位継承の最初の儀式にあたる「剣璽等承継の儀」が皇居宮殿・松の間にて行われました。

皇位のみしるしとされる三種の神器のうち、剣と勾玉、国事行為の際に印として用いられる国璽と、天皇の印である御璽を天皇陛下が受け継がれたのです。

即位後初めて国民の代表とお会いになるのが「即位後朝見の儀」です。天皇陛下は「常に国民を思い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国及び日本国民統合の象徴としての責務を果たす」と、天皇となり初めての「おことば」を述べられました。

八日、天皇陛下が親ら賢所・皇霊殿・神殿(宮中三殿)に即位礼及び大嘗祭の期日をご奉告され、神宮や神武天皇陵などに勅使を發遣される儀式が執り行われました。これに関連し、神宮でも十日、臨時祭(即位礼及び大嘗祭期日奉告祭)が行われました。この祭儀は、昭和から平成への御代替わりとなる平成二年にも同様に行われました。

臨時祭は外宮から。大御饌と奉幣が、内宮でも同様に執り行われました。

奉幣では、幣帛をおさめた辛櫃を持つ



1



2



1/ 皇位継承に伴う大嘗祭の挙行を神宮に奉告するため、天皇陛下が勅使を遣わされる「神宮に勅使発遣の儀」(11月8日)。写真提供/宮内庁
2/ 大嘗祭当日祭(11月14日・外宮)。黒い束帯に太刀を携えた勅使が宮中より発遣された。
3/ 大嘗祭当日祭(11月14日・内宮)。黒田清子祭主はじめ小松揮世久大宮司以下神職が奉仕して執り行われた。

神職が先に進み、その後ろに黒い衣冠をまとった勅使、白袴と緋袴姿の黒田清子祭主が続き、小松揮世久大宮司以下神職らとともに正宮へ。天皇陛下の御即位に際し、即位礼と大嘗祭の期日を天照大御神に奉告しました。

即位礼正殿の儀

「即位礼正殿の儀」は、天皇陛下が御即位を内外に宣明される儀式です。十月二十二日、皇居宮殿・松の間で営まれた。

この日は祝日となり、朝からすべてのテレビ局が皇居内外の様子を中継。前夜から降り続く雨の中、はじめに「即位礼当日賢所大前の儀」が行われました。賢所は天照大御神をおまつりしているところ。陛下親ら即位礼を行うことを奉告する大切な儀式です。

午後一小时前、天皇陛下が昇られる高御座と、皇后陛下がお立ちになる御帳台の前には、秋篠宮皇嗣・同妃両殿下はじめ皇族方が整然と並ばれました。カーンという鉦の音を合図に、参列者が起立すると、高御座と御帳台の御帳が開けられ、両陛下がお出ましに。天皇陛下は、古来天皇にしか着装が許されない黄櫨染御袍の御束帯。皇后陛下は髪を大垂髪に結び、御五衣・御唐衣・御裳という、いわゆる十二単をお召しになられています。

いつのまにか雨風が止み、雲間からは日が差し、上空には七色の虹も。安倍首

相が陛下の前に進むと、天皇陛下は侍従より「おことば」が書かれた紙を受け取られ、ゆつくりと力強く即位を内外に宣明されました。

即位礼正殿の儀には、日本を代表する方々と、王族はじめ百九十一の国や機関からの代表者など約二千名の参列者があり、両陛下は御即位を披露し、祝意を受ける「饗宴の儀」をお開きになり、食事とともにされました。

神宮では大嘗祭当日祭を齋行

大嘗祭は、「御一代一度の新嘗祭」ともいわれ、毎年十一月に宮中で行われる新嘗祭を、即位後に初めて大規模に行うもの。約千三百年前、第一回神宮式年遷宮と同じ頃に始められ、至高至聖の「あえのこと」といわれます。

数多くの祭儀からなり、大嘗祭で使う米を栽培する齋田(東西二ヶ所)を決める「齋田点定の儀」や、その齋田から米を収穫する「齋田拔穂の儀」などを経て、十一月、このために建てられた大嘗宮の悠紀殿・主基殿にて天皇陛下親ら神饌を奉り、親らも召し上がることで、神々がさらに威力を増され、陛下もその威力をお受けになるといってお祭りです。

十一月十四日から十五日にかけて行われる「大嘗宮の儀」に先立ち、八日には「神宮に勅使発遣の儀」が行われました。大嘗祭を行うことを奉告し、幣物を供えるために勅使を遣わす祭儀です。

大嘗宮の儀当日の十四日、神宮では黒

田祭主はじめ小松大宮司以下神職の奉仕のもと、「大嘗祭当日祭」が行われました。まず外宮で午前四時から大御饌が、七時から奉幣が執り行われました。常の勅使参向のお祭りとは異なり、勅使は黒い束帯を着装し、帯剣して威儀を正しています。参進中は帯剣し、正宮の御垣内では「解剣」といって剣を外すならわしです。正宮では勅使が陛下から託された「御祭文」を読み上げた後、大宮司が祝詞を奏上。この日の夜に大嘗祭が執り行われることを大御神にご奉告しました。正宮のあと第一別宮の多賀宮、つづいて内宮と第一別宮の荒祭宮でも同様の儀が齋行されました。

神宮では同日から同月二十日にかけて、別宮・摂社・末社・所管社のすべてで大御饌と奉幣の儀を行いました。

神宮に御親謁の儀で伊勢へ

即位礼と大嘗祭という大儀を無事に終えられた天皇皇后両陛下は、十一月二十一日、「神宮に御親謁の儀」に臨まれるため、伊勢へ行幸啓あそばされました。午後四時半頃、近鉄宇治山田駅に到着された両陛下は、多くの市民に出迎えられ、御料車で内宮の行在所へ。夜には両陛下のご来勢を奉祝する提灯行列がおはらい町を練り歩き、内宮の宇治橋前では万歳三唱の声が響き渡りました。

御親謁の儀は、即位礼と大嘗祭を終えられたことを大御神に親しくご奉告され、その御代の弥栄と国民の平安を祈念



7/皇大神宮に御親謁の儀に臨まれる天皇陛下(11月23日)。
8/ご奉告を終えられ雨儀廊を進まれる天皇陛下。
9/オープンカーで参進される皇后陛下。



神宮御親謁の儀

大御神に御即位を奉告され
御代の弥栄と国民の平安を祈られる



1/御即位後初めて伊勢を訪問される両陛下。宇治山田駅前にて(11月21日)。
2/御親謁の儀に向け、内宮をご出発された御料車(11月22日)。
3/雨が降る中、幌の付いた儀装馬車で参進される天皇陛下。
4/雨儀廊の中を進まれる皇后陛下。
5/両陛下の御即位を奉祝し、市民による提灯行列が行われた(11月21日)。
6/宇治橋前に到着した提灯行列は万歳三唱で締めくくられた。

される御一代に一度のご参拝です。大正時代以降、昭和、平成、令和で四度目となります。
時おり激しい雨が降る二十二日、両陛下は午前九時に内宮をご出発。お姿を目にしようと沿道や外宮表参道前に集まった人々に御料車の中からこやかに手を振り笑顔を向けながら、外宮行在所へ入られました。

十時半頃、天皇陛下は黄櫨染御袍に立褰御冠をお召しになり、手には御笏を執られて行在所を出発。幌の付いた儀装馬車にご乗車され、静寂の神域をゆっくりと進まれました。先導には冠に木綿鬘を付けた禰宜二名。陛下は正宮の板垣南御門前で降車されると、劍璽を捧げ持つ侍従とともに御正殿の中へ。御菅蓋をさしかけられ、約七十五メートルの雨儀廊を進まれた陛下は、神宝や幣物を奉納し、大床の御座帖にて玉串を捧げ拝礼されました。

天皇陛下が行在所に戻られると、皇后陛下が御親謁の儀に臨まれました。皇后陛下は御料車でのご参進です。雅やかな十二単のお姿や、額に付けられた釵子の輝きがひときわ華やか。板垣南御門前で車を降りられ、侍従次長や女官長などの随従で参入された皇后陛下は、陛下と同様に玉串を捧げ、拝礼されました。

晴天となった翌二十三日、両陛下は内宮で同様の儀に臨まれました。天皇陛下は前日と同じ漆塗りの馬車の幌を外され、皇后陛下は、即位パレードで使われたオープンカーで神域を参進、内宮御正殿へ参拝されました。

ご到着の二十一日から二十三日に東京へ戻られるまで、駅や両陛下が移動される沿道は多くの人で埋め尽くされました。三重県によれば三日間で約四万一千人が奉送迎を行ったとのこと。両陛下が集まった人々に手を振り、笑顔で応じられる清々しいお姿に、「令和」という新時代の息吹が感じられました。

日本の平安と皇室の弥栄を願って、ぜひ令和の伊勢参りにお越しください。